

刊夕日十二月五

常磐每日新聞

定額一圓五錢 一月五錢 三月一圓二角 半年二圓五角 一年四圓五角
 廣告料五錢 十二字一圓 一行五錢 五字二錢
 印刷部 電話六二〇〇
 發行所 常磐每日新聞社
 印刷所 常磐每日新聞印刷株式會社

衰者必盛ならず

眞繼 雲山

『祇園精舎の鐘の聲に諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色は盛者必衰の」とわりの現はす……』とは皆様先刻御承知の有名な太平記の書き出しである。夫れ然り、盛者必衰のことは、りは古今の史實が明かに示してゐるが、而かも衰者必ずしも必盛ならず衰へたるもの、待つこと百千年の久しきに及ぶといへども遂に榮ゆるの期なく恨みを呑んで涙と共に朽ち果てたりといふの史實も亦た決して少なきを愛へない。

何として然るのであらうか盛者必衰なるべくは衰者また必盛であらねばならぬ道理と思はれるが、さう詭らへたやうに參らぬのは盛衰みな是れ因果の理法に即するが故であつて盛者の衰ふるは、その盛時にやがてふべき原因を積み置くからであるも、衰者の必ずしも盛ゆることなきは、衰者の榮ゆべき原因を修せず、御當人は修したつもりであつても助縁のこれに相應せざるに由る。

凡そ生あるもの、世榮を欣ばざるはなく、は相を慾するもの未だあることなし而かも人達の榮を極むるものは千萬人中の二にして舉世比々みな悲運の思ふに任せざるに泣くのである。人間の惱こゝに在り、世間道としてこれを満たすの法はない。

然らば、佛教はこれを如何に見るぞといふに、他の榮達を祝福すること敢へて人後に落つるではないが、左様な世榮は楳花一朝の夢にしてやがて木から落ちた悲哀の日を必ず來るべきを教へ、寧ろ初めより昇らざるに如かずと訓へる。生れたものは死なねばならぬ、他人を蹴落して登つたものはやがて蹴落されてペンを掻く日が必ず來る。生死共に謝し榮落共に厭離し畢るところに、世外に轉脱するの一路がある。これを出離生死といふ。

怨みに代ふるに仇を以てし、盛衰の道をこもこも争ふにおいては永く輪廻の繫縛より脱する日はない。看來れば現代は是れ盛者衰者亂闘の巷である。獨り現代の然るのみにあらず、無始來永劫に亘る地球上の一切の姿がそれである。その盛衰榮落を厭離し終つた脚底の日常生活に涅槃寂靜の直道ありと知れ。

如來とは深き義を有する。如は如しである物その物ではない物その物ではないが、物その物と違つたものではない、釋尊が煩惱を拂ひ一切智を得て正覺を開かれて見ると越し方にも如々の姿あり、それは御自身と少しも違つたものではないなかつた、過去六佛が御自身そのものであつたやうに、現在の三世諸佛未來の一千佛は亦た御自身と少しも違つたものでないことを釋尊は知られた。前後左右みな如々の姿であつた。その如より來現せられたる御自身なることを知られた時に『我れは如來なり』との自覺が生れた、その心境は古歌に曰ふ

來て見ればこゝも 櫻の峯つゞき 芳野初瀬の花の中宿 といふに等しいものがあつたであらう釋尊はこの峯つゞきの花の中宿に外ならなかつたその意味が如來者の語によつて表現されたものと思はれる。

私たち凡人は生死の壁に遮ざられて前後の峯つゞきが見えぬそれは一切の名字と化相に禍ひされて自己の孤立を考へるからである本來無我と知り、自他俱に平等真如の體なるを知るとき芳野初瀬の櫻花もいま目前に咲く櫻花も別々のものでないことが分る。形に三あり四ありとも命といふに

二なきといふところに心眼を開かねばならぬその命といふ悟れば御同様に如來者である。この真如より來り生れての

撰 當

五月節句の御祝品も安く良いので!!!

御座敷帳揃	形人形
武者人形	形人形
金太郎人形	のぼり
外布	鯉

平町四丁目 スガノヤ提灯店 電話九五

藤沼醫院

入院需應

内科・小兒科・花柳病科

平町紺屋町 電話五〇七番

正札堂

春のトレンヂコート	7.50
春のバアバリー	3.00
春の正札堂特製トンビ	8.50
春の紺セルネツミセル外套	4.50
春の三ツ組セビロ	7.50

平四丁目停車場通り 電話四三六番

旭硝子株式會社製品

板ガラス

赤菱印

硝子 子 壺

硝子 食器

其他 各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)

支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

五月武者人形 特價大賣出し!

毎度格別ナル御同情ニ預リ難有御禮申上マス例年ノ通り御座敷帳及布鯉御道具類等一式豊富ニ取揃陳列致シマシタ御得意本位主義ニテ特價ニ差上マス。御一覺ノ程御待チ致シマス。

平町三丁目日本通り 落花生問屋

叶星號 加藤提灯店

吸入用酸素素純度99%

度量衡

モノサシ 体温器

マス 寒暖計

ハカリ

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局 電話四〇番

五月人形陳列會

◎非常時日本の心意氣 尙武人形

◎品と値で常に祝品界をリードするフクダヤの名作品を御覽下さる。

御座敷飾セット	六圓ヨリ百五十圓迄
武者人形	一圓ヨリ三十圓迄
金太郎人形	五十錢ヨリ十八圓迄
五巾外のぼり	十圓ヨリ四十五圓迄
大鯉のぼり	二圓ヨリ四十八圓迄

二丁目の フクダヤ

市内各小學校の

夏休プラン決定

何れも臨海學校開設

平町各小學校にては此の程職員會を開いた結果今夏休み中に於けるプランを左の如く決定した

△第一小學校
臨海學校(四倉海岸) 關伽
井嶽登山 野球練習 庭
球籠球の練習 ラヂオ體操

△第二小學校
海濱學校(豊間薄磯海岸)

△第三小學校
海濱學校(豊間海岸) 山岳
學校(登山) 夜間學校 黎
明學校(早起) ラヂオ體操
(競技指導)

発表された

本縣検査新吏員

濱通り受験者廿七名中

合格発表は僅かに九名

十九分湯本驛着解散の豫定である

既報本月八日警中講堂で行はれた本縣木炭検査吏員の採用試験を受験せる濱通り方面廿七名中今回縣より發表された採用者は左記九名である

- 佐藤震築 水野兵司 蛭田春治 鈴木良吉 猪瀬末吉 折笠峻嗣 大和田嘉債 竹内三好 紺野廣三

須賀川ボタン

視察團明朝出發

常磐線湯本驛主催の須賀川牡丹園視察團百五十餘名は明廿一日同驛五時廿分平發五時三十三分發列車で郡山經由須賀川の牡丹園を視察後白河町棚倉町より茨城縣水戸市を経て同日午後五時

スポーツ

平第一校對

泉校職員對抗野球

平第一小學校職員野球チームにては本日午後二時より泉小學校職員チームと試合を行ふべく平發午後一時二分にて遠征したが兩校のメンバーは左の如くであると

- 上田政正 藤竹本川野 井嶽松松 佐水根古丹 投捕 一三遊右中左 荒野木目橋見松名原 泉 日鈴中 高道若 椎下

警崎青年總會

石城郡警崎村青年團では来る廿二日午前八時より同村小學校に於て役員會を開き幹部役員の改選を行ふと

中等校柔道大會

濱通り

明日相中へ開催

警中、平商の優勝期待さる

警城中學校及び平商學校柔道部にては来る二十一日午前十一時より相馬中學校に於て第二回濱三郡中等學校柔道大會が開催されるので必勝を期し出場する事になつたが昨年の戦績は優勝相中、第二位警中、第三位双中、第四位相農、第五位平商の順であつた所から警中にては今年こそ是が非でも優勝すべく又平商は優勝出来な

校庭に

大鯉職

第一校節句の試み

平第一小學校にては来る二十八日舊曆端午の節句に當

るので例年の如く早月晴れの校庭に大鯉職及び吹流し等を立て、兒童の前途を祝福する事になつたと

濱三郡漁業組合で

縣低利資金融通

總額二万五千五百圓

西伯郡大幡村字峯本中野谷雄(四九)

石城郡小名濱町漁業組合及び四倉豊間の各組合では豫てより事業擴張の爲め縣の低利資金融通方を縣に申請中であつたが今回三組合に對し二萬五千五百圓の貸付方許可の指令があつた各組合の割當左の如くである

- 小名濱一萬圓 四倉一萬二千圓 豊間三千五百圓

飯野村で

優良納税表彰

石城郡飯野村役場では本二十日午後一時より同村小學校に於いて優良納税組合の表彰及び賞品の授與式を舉行した

經濟更生協議

既報石城郡飯野村では本年度自力更生の縣指定村となつたので今二十日午前十時より實行委員三十餘名が同村小學校に參集第一回の實施案を協議するので郡農會より青山技手が出席した

平町人事

回出生

△紺屋町二七 馬目丈夫氏 二女 恵子

回死亡

△舊城跡四二 當時鳥取縣

三井タクシ

電話 八六八五番

來る三十日執行せらるべき町會議員選舉に際し警陽野球界の恩人吉田金作氏には舊城跡、八幡小路兩區民の熱誠なる推薦により遂鹿戦場に出馬決意致され候

御承知の如く同氏は三十餘年我海運界に身を置き日本郵船會社の名船長として東西兩半球の貿易港に足を印せざるなき國際人たるのみならず殊に歐洲大戰當時はコロンヤ丸船長として獨乙エムデン號の慘禍におびゆる歐洲航路に幾度の航行を重ね何等禍も無きを得たる剛膽の人士に御座候

今や功なり名遂げ悠々故山に自適する境涯にありながら郷土愛に燃ゆる同氏が警陽野球界向上の爲に貢獻せる功績は吾等フアン一同の感激する所に御座候如斯大陸的な氣宇と眞摯なる信念を持つ純情の郷土人こそは町會の淨化を計る最適者として推挙するものに候日進歩の途上に在る平町政刷新の爲め又警陽野球界向上の爲めにも實に重大なる意義を有する事なれば御賢察被成下大多數を以つて當選の榮冠を得せしめらるゝ様御援助贈り度懇望する次第に御座候

警陽野球後援會有志

- 阿部政右衛門 新田目春 柴田友次郎 石川友次郎 井坂久吉 熊木謙次郎 高木忠三郎 外幹事 一 同 責任者 福島縣平町長橋町七 高木忠三郎

平町會議員候補者 關内正一君を推薦す

- 推薦者 平町二丁目 鈴木木堅助 田卷造酒之助 三井文吉 丹野榮三郎 石川友次郎 關内慶次郎 坂内慶次郎 長瀬延太郎 里見金太郎 責任者 平町二丁目十三番地 丹野榮三郎

労働者の味方となり

果然丸山春藏君立つの

戦士も既に定員を超過し

戦は愈々白熱化する

平町議戦も餘すところ十日となり既に届出を了した候補者は死物狂ひとなつて猛運動を續けてゐる二十日正午迄に立候補届出をなしたのは松崎長太郎(五)氏荒川淺次郎(五)氏根本品藏(四)氏の三氏を加へて合計三十二名(辭退者を除く)となり全く定員より二名を超過するに至つたこの外齊藤角治永山富廣兩氏更に労働者を代表して丸山春藏君が立候補するとの事で前回同様候補者は五六名多くなる模様

戦死者遺骨

廿三日午後平野通過 今回の日清事變で戦死者は關東軍飛行隊の戦死者遺骨は来る廿三日午後一時五十分平野着列車にて通過するので各學校在郷軍人分會では驛頭送迎する筈

略式に不服で

正式裁判申立

赤井村の傷害事件終局

略式通りの判決言渡

既報石城郡赤井村大字赤井字大倉百四十三番地佐藤金彌(六)及び同町宇窪田七十三番地農鈴木隆衛(五)の兩名が去る一月五日同村第一小學校に於て同村第一共同財産保護組合の代議員會の資格問題から議長宮内喜作及び代議員木田仙次郎より退場を命ぜられたのを憤慨

であるが何れにしても全候補の出揃ふのは二十三日日頃であるから日ならずして各戦士の猛烈な白兵戦が各所に展開される事であらう

自殺の遺書を

置いて少年家出

神経衰弱が昂じて

石城郡内郷村大字綴字堀坂居住坑夫木村安治二男輝雄(二)は去月中より神経衰弱に罹り自宅で療養中昨十九日午後三時頃家人の不在中自殺するとの遺書を殘して行衛を晦したので實父から平署に捜査願ひを出した

平窪青年團

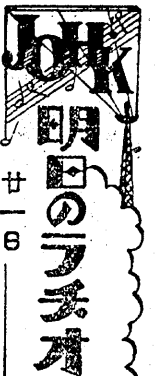
銃後の奉仕

石城郡平窪村青年團下平窪分團第一部にては来る二十一日入營兵の留守宅を訪問し労働作業の奉仕をなす

コソ泥三郎に

懲役一年四ヶ月

住居不定前科三犯酒井三郎



今晩も明日も北東の風雨模様

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
ハーモニカ 慶大ハーモニカ
ニカソサイテイ
後六、二五 ことばの講座
神保格
後七、三〇 講演 フラン
ス拳闘選手ブラドネル、
ラファエル ユーグ
渡された

明日の部

前九、一〇 榮養料理立
「辨當(十九)碗豆御飯と
野菜の煮付」榮養研究所
前九、三〇 子供の時間
前一〇、〇〇 宗教講話
前一一、〇〇 講演「我が
國移民に就て」拓務參與
官木村小左衛門
前一一、一〇 講演「光の
世界と色彩の美」廣島文
理科大學教授理學博士正
木修
後一〇、〇五 満洲より
後一一、二〇 新人の午後
後一二、五〇 野球試合實況

酌婦に迷つて

妻子を残し家出

後日物語りに泣く老ルンペン

本日午前十一時頃平町役場に旅費の貸與方を願出た老ルンペンの事情を係員が聞くと宮城縣名取郡沼沼町中町三〇〇生れ伊藤光太郎(七)と云ふ老桶職で卅年前本籍地で相當の家財を持ち營業して居たが神奈川縣生れ酌婦西牧トキの花香に迷ひ妻子を残して無断家出を

佐藤組合長等

本日保釋出獄

双葉郡富岡町耕地整理組合長佐藤徳右衛門(五)は詐欺

美味!

芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

市原醫院

平町田町
電話一四四番

平職業紹介所報告
回人を求める方
△女中 二十以下 尋卒
給料面談(平町某)
△自動車助手 十八才 尋卒
△農夫 四十五迄 委細面談(好間村某)
△出前持 二十前後 委細面談(平町某料理店)
回職を求める方
△料理人 二十四才 尋卒
給料面談(平町某)
△女中 十八才 高女卒
給料面談(好間村某)
△事務員 十八才 南卒
給料面談(平町某)
△雑夫 四十二才 尋卒

東京大學野球聯盟リーグ戦(慶應對立教)明治神宮外苑球場より中継
後四、〇〇 大角力夏場所實況(十日)國技館より
後六、〇〇 子供の時間
物語 徳田秀聲
後六、二五 趣味講座「高山、山本兩名人の百番戰」
六段萬柏亭
後七、三〇 講演「親子觀別の話」熊本醫大教授醫學博士世良完助
後八、〇〇 義太夫
後九、〇〇 映畫物語「荒神山の血煙」國井柴香
給料面談(平町某)
△鐵工見習 十七才 高卒
給料面談(内郷村某)

幕末剣術

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
上田馬之助

其の後を斬つては興味がない、身体に生氣の満ちたところを斬れば面白いさア覺悟しろ」
○「さて、初太刀は俺だ」
などと三四人で初太刀を争ふやがてくちを拵へてこれに依つて初太刀を極める事にした、新三郎は魂も身に添はずガタ／＼慄へてゐるところへそれへ駈けて來たは此の賊の同類
×「大變だ、堤で出會つた今一人の武士は頗る腕が出来て居るぞ、逆も我々共

初太刀の争ひ
木母寺の墓所の松の大樹に新三郎を縛り付けた賊共いづれも顔を包んでゐる
△「ヤイこいつ金を出せ」
新「金は持つて居らん一兩一分丈あつたがそれは自宅に差し置いてある、金は運の者が多分に持つてゐる」
△「いつはりを申すなあるに相違ない、今懐中を檢べて見るぞ」
と懐中へ手を入れて紙入を引き出し中を見ると金は二朱金が一つ他に女の文があるばかり
△「成程貴様の云ふ通り金はないな金がなければ斬つてくれる」
新「コレハ怪しからん命ばかりは助けろ」
△「助ける事はならん金を多分に差し出せば命は持たして戻すが金のなき上は貴様を斬つて新刀の斬味を試めす」
と云ひながら引き抜いたすると同類が
○「まあさて、斬るな」と止めたそれを見て新三郎が扱は助かるかと喜んだがその時止めた者が
○「さて、此ま、斬るは



新「何うぞ御勘辨ください」と云つたが肯き入れず踏み倒して衣類を剥ぎ取りまた繩をかけて
△「これで宜しいさア初太刀は俺に任せろ」
△「これは怪しからん初太刀は俺だ、貴公に斬られ

は敵はぬそれで茲まで引き上げて來た早く逃ろ」と云はれて
○「何だ貴様たちは只一人の敵を刺さずこれまで逃げたなこれへ其奴が參つたならば巻き討つに致してくれ

と云つて居る處へ賊共逃げるなど云ひながら一刀を振つて駈け來たりしは上田馬之助賊はこれを見ると四方より斬つてかゝる物々しやと上田が此奴らを相手に闘つたが其の鋭き太刀風に當り難く賊は一散に逃げだした、其れを見送る上田馬之助
馬「弱い奴だな大勢にて只一人の俺を斬ることがならぬとは未熟な奴だ時に新三郎殿は何うしたな、此邊に居らぬかな」
新「此處に居る、助けてくれ」
馬「オ、それに括されて居られるか貴公も未熟だな」
新「イヤ俺も弱いであらうが賊は無法者で金が無いから試し斬りに致すと申して衣類まで剥ぎ取つた」
馬「それは驚いたであらう」
新「驚いたとはこんな事ではない實に刀を抜かれた時の恐ろしさはもう此の世には再び當れぬものと覺悟した」
馬「まあまあなさい繩を解いてやる」
とバツリ／＼と刀にて斬る新三郎は立ち上りそれに落ちてある着物を取つて身につけ
新「これにて何うやら人らしくなつた」
馬「さア引き上げるであらう」
新「何處へ參るな」
馬「拙者の住居へ參れ」
と今此の墓場を出ようとしたり時に木母寺と書いた提

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 胃性腸病

林病 十二指 腸虫病

門專 院醫科

村松 南平

電話七〇一

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

灯を持ち六尺棒を突いて其れへ出て來たは寺男
男「墓場が大分騒がしいが何事か不埒千萬近頃は堤へ追剥が出るさうだがさア泥棒この棒を食らへ」
と大層威張るそれを見て上田が
馬「もう賊は此處には居らぬぞ」
男「ハア然うかそんな事だと察して出て來たまア、此方へ來てお休みなさいまし貴下のお強い事は見て居りました」
と云つたが此寺男は世慣れて居ります上田はこれを聞いてアハ、と笑ひました

懸賞尋不白轉車

弊店名義新品車 一臺

鑑札番號 福島縣一〇四、二八〇番 平 六、九四一

右新品自轉車ハ去ル三月二十二日購入セシガ、四月八日以來行衛不明トナリシ故、發見御知ラセ下サレシ方ニハ懸賞金五圓也。御届ケ下サレシ方ニハドナダニ不拘金拾圓也ノ懸賞金ヲ差上ゲマス。

平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

各國産 漆器商

共榮漆器店

男女安全豫防藥

新發賣 志のぶ錠

しのぶ錠は花柳病の豫防藥たるのみならず〇〇〇〇の外コシケ、子宮、内膜炎、腫加答兒並に婦人〇部の癢痒等の治療の目的に用ひられる事でも〇〇〇〇の豫防と治療の二重奏をなします

專賣所 **阿康藥舖**

平古鍛冶町(電話四四番)

城警 **共濟病院案内**

院長 醫學博士 石山謙 郎

科 醫學博士 石山謙 郎

小兒科 醫學博士 佐久間 謙 郎

外科 醫學博士 桂 重 郎

喉科 醫學士 有馬 勇 二 郎

皮膚科 醫學士 五十嵐 雄 二 郎

産婦人科 醫學士 佐久間 謙 郎

X光線科 醫學博士 石山 謙 郎

衛生試驗所 醫學博士 石山 謙 郎

藥局 技師 高石 謙 郎

藥劑士 吉本 孝 平

◎診療時刻午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

平町 **磐城共濟會**

電話六四一番